# 平成２１年度病害虫発生予察指導情報

## 対象病害虫：イネ・フタオビコヤガ（イネアオムシ）(№１)

平成２１年6月２６日
鳥取県病害虫防除所

### １　情報の内容

６月１５～１９日の県内巡回調査の結果によると、フタオビコヤガ（イネアオムシ）が平年に比べて多く発生している。今後、７～８月にかけて発生する第２～４世代幼虫による被害が懸念されるので、今後の発生状況に注意が必要である。

### ２　発生状況

（１）県内巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は３０．７％（表１）で、平年（４．３％）より多い発生となっており、一部で被害程度が高いほ場が認められる。

（２）本種の発生は、育苗箱施用剤を処理していないほ場、チョウ目害虫に対して効果が高い育苗箱施用剤を使用していないと思われるほ場、早期に移植したほ場を中心に認められている。

（３）現在、現地ほ場での発生の主体は老齢幼虫～第１世代成虫である。したがって、次世代幼虫は７月上旬～中旬頃より発生し始めると考えられる。

### ３　防除上注意すべき事項

（１）現在、本種の防除が必要なほ場は少ない。しかし、老齢幼虫の発生が特に多い場合は、粉剤又は乳剤などで早急に防除を行う。

（２）気象１か月予報（６月１９日発表）によると、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されていることから、本種の増殖にやや好適な条件になるものと見込まれる。したがって、今後の発生状況には十分注意が必要である。

（３）本種に対して効果が高い育苗箱施用剤（ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤、フルサポート箱粒剤など）を使用していないほ場では、７月中旬頃より幼虫の食害が増加し始めると予想される。

（４）７月中旬以降、穂ばらみ期防除の１週間前までに要防除水準（暫定版：下記の①～③の条件をすべて満たす場合、①発生の主体が１．２㎝以上の幼虫、②被害株率９０％以上、③食害葉面積率１０～２０％以上）に達した場合は直ちに粉剤又は乳剤などで防除を行う。

上記の時期に要防除水準に達していない場合、穂ばらみ期に、他の病害虫との同時防除を行う。

表１　巡回調査地点におけるフタオビコヤガの発生状況

| 地区 | 調査地点数 | 調査ほ場数 | 発生ほ場率（％） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | H21 | H20 | H19 | H18 |
| 鳥取 | 8 | 80 | 32.5 | 6.7 | 8.4 | 15.6 |
| 八頭 | 4 | 40 | 32.5 | 13.3 | 8.0 | 12.1 |
| 倉吉 | 6 | 60 | 23.3 | 15.6 | 10.9 | 5.0 |
| 米子 | 8 | 80 | 36.3 | 28.3 | 11.4 | 30.4 |
| 日野 | 4 | 40 | 25.0 | 26.7 | 10.8 | 0.0 |
| 合計・平均 | 30 | 300 | 30.7 | 17.8 | 9.9 | 15.5 |